

- 1 題材名 擬態語・擬声語（ものようすを表すことば）
- 2 題材のねらい 作品からのイメージを擬態語・擬音語にすることによって、他者とのかかわりを楽しみながら、言葉による表現を豊かにする。
- 3 指導目標
- ・作品から感じたことや考えたことを擬態語・擬音語に表現しようとする。
[関心・意欲・態度]
 - ・擬態語・擬音語を通して、事物の内容を表す働きがあることに気付くこと。[言語事項]
- 4 指導計画（2年生 1時間計画）

	学 習 活 動	留 意 点
導 入 5 分	グループごとに、どんなカードがあるか確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カードが広げられるような場所を確保できるように配慮する。 ・自由にカードを見たり感想を言い合ったりしながら学習への期待をふくらませられるようにする。
展 開 1 ・ 2 3 0 分	「擬態語・擬音語どれかな、どれかな」を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・まず教師が親になり、ゲームのルールを全員に理解させた後、グループごとに活動させる。 ・擬態語・擬音語がなかなか探せない児童には、机間指導をしながらヒントを与える。 ・一人で親を行うのが難しければ、数人のチームで親を行わせてもよい。 ・親の選んだカード以外（はずれ）を選んだ児童も選んだ理由を聞き取り評価するように配慮する。
ま と め 1 0 分	本時の活動を振り返り、感じたことや考えたことを発表し、本時の感想をプリントに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに感じたことを発表したり文章に書いたりさせる。 ・友達の感じたことや感想には、共感的・肯定的な気持ちを向けながら耳を傾けるように声をかける。

5 応用 擬態語・擬声語いっぱいさがそう

6 児童の感想

- ・さいしょは何もわからないと思った。でも、あとから、かいてあるものが見つけれられてうれしかった。
- ・絵を音で聞けるとは思わなかった。
- ・いろいろ違う絵をやってみて、楽しかった。
- ・ ちゃんの発見した音がすごく楽しくてびっくりした。
- ・絵の中にたくさんの音や言葉が隠れていたのがおもしろかった。

実践して気が付いたことなど

ゲームを通して楽しく活動することで「鑑賞する目」をもたせ、言葉に広げていくことができたと思う。

児童が意欲的に作品を鑑賞しようとする様子が見られた。児童の五感を刺激するような適切な教材を与えることの意義を感じた。

このような活動を通して、それぞれの感じ方の違いに面白さや豊かさが感じられるようになっていくことを期待している。